

令和5年10月定例会

一般質問一覧表

【日程第9】

一般質問

順番	議員名	一般質問内容
1	古堅 茂治 (一問一答方式)	<p>1 ごみ焼却施設は、複雑・大規模で高度な総合技術システム（プラント）である。それ故に、プラントメーカーが強い影響力を持っている。ごみ焼却施設は、運用期間の長さを考えると、プラントの建設費より維持管理（運転＋保全）費用が大幅に上回ることになる。そこで、本施設の建設費用、稼働から今日までプラントメーカーに支払ってきた定期点検修理費、修繕費などについて問う</p> <p>2 稼働から今日まで、プラントメーカー以外に支払ってきた修繕費、維持管理費などについて問う</p> <p>3 公正な入札・契約の実施、透明性の向上などへの取組みについて問う</p> <p>4 本組合で過去に発生した汚職・不祥事の概要について問う</p> <p>5 周辺まちづくり事業について問う</p>
2	岡崎 晋 (総括質問方式)	<p>1 焼却施設の長寿命化について問う 近隣で焼却施設の稼働が38年間に及び、また、最終処分場の埋立期限が迫り、喫緊の課題を抱えている広域組合・自治体がある中、那覇市・南風原町環境施設組合の焼却施設は稼働18年目を迎えた。焼却炉のメーカーは一般的な稼働期間を概して25年間というが、当組合の焼却施設の今後の管理運営について問う (1) 当組合の焼却施設をいつまで稼働したいと考えるか。 (2) そのための計画は策定されているか。 (3) 令和3年度で終了した基幹的設備改造工事はどんな工事で、何年間要し、費用は幾らだったか。 (4) 長寿命化のために、次は何を予定しているか。 (5) 同じ頃に稼働した当組合と同様の焼却炉は国内のどこにあるか。 (6) 主な修繕や改造工事をメーカー側に依存するが、適正な価格をどう担保していくか。</p> <p>2 最終処分場について問う 高熱で多量の電気を消費する灰溶融炉の運転を止めて、主灰をセメント原料にできるようにし、セメント会社に引き取ってもらうようにするのは大変良いことだ。そこで改めて次のことを問う。 (1) 灰溶融炉はいつから運転を止めて、主灰のセメント会社への搬出はいつから始まるか。 (2) 現在の最終処分場の埋立期限はいつで、今後、これを先に延ばす方策はあるか。 (3) 灰の最終処分場建設予定地は確保しているか。</p>
3	新垣 善之 (一問一答方式)	<p>1 那覇・南風原クリーンセンター長寿命化計画を問う (1) 灰出し設備改良工事終了後の委託費用の支出や有価物売払い収入が減収となる。その歳入歳出補填をどう考えているか。 (2) 灰溶融炉の休止における本センターの長寿命化の目的と費用対効果を改めて問う。</p> <p>2 他団体ごみ処理受託を問う (1) 他団体ごみ処理受託収入が令和3年度処理受託料約1,660万円 処理量約533 t、令和4年度処理受託料約3,275万円処理量約969 t、本年度4月～8月までの処理受託料約6,600万円処理量1,640 tへと推移している。本センターでの他団体のごみの受け入れ処理量の上限は協議されているか。</p> <p>3 最終処分場の今後の計画を問う (1) 「那覇エコアイランド」は平成19年度から供用開始され、令和13年度までの埋立可能期間となっている。令和4年度末における埋立容量94,000㎡に対して約64.5%の累積埋立である。計画では残り9年であるが、その後の計画を問う。</p>